

# パネル展

# 金と銀の島、佐渡

〈 鉱山とその文化 〉

新潟県と佐渡市は  
世界文化遺産登録に向けて取り組んでいます。

国史跡 道遊の割戸 慶長6年(1600)に発見。佐渡金銀山遺跡のシンボル。

人の手で山が二つに断ち割られた姿に、金に対する情熱が感じられる。

展示期間 3 / 1 ~ 3 / 2 9

展望室開館時間 通常 8:00~22:00 (最終入場 21:30)  
金曜 8:00~17:00 (最終入場 16:30)

展示会場 Befco ばかうけ展望室  
(新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル31階)

主催 新潟県佐渡地域振興局

# 金と銀の島、佐渡 ー鉱山とその文化ー

佐渡の金銀採掘の歴史は古く、「今昔物語」（11世紀末）に登場する西三川砂金山の砂金採取が最古とされ、16世紀中頃、露頭掘りによる鶴子銀山や新穂銀山の開発に始まり、相川金銀山の発見に至り最盛期を迎えます。

江戸時代初期には、最先端の測量・採掘・製錬技術で世界の産金量の約5%にあたる年産400kgの金と、年産37t余の銀を産出し、世界有数の金銀産出量を誇っています。

明治時代に入ると、西洋技術の導入による再開発が進められ、近代的な浮遊選鉱場や製錬施設は東洋一の近代設備を備えた鉱山へと生まれ変わりました。

平成元年の閉山までの約400年にわたる金銀山に関連する遺跡・建造物・景観が広く分布する佐渡は、人類が獲得したすべての鉱山技術の変遷と、それに付随する文化を目の当たりにできる世界的にも稀有な島と言えます。

新潟県と佐渡市では、これらを地域の宝として永く残し伝えていくために世界文化遺産登録を目指し、調査・研究、内外への情報発信や普及啓発など様々な取り組みを行っています。



【西三川砂金山】

虎丸山（とらまるやま）

虎丸山は、砂金流しのために崩された山で、現在も植物が生えず、茶色の山肌をあらわにしています。



【相川金銀山】

北沢地区 浮遊選鉱場

（きたざわちく・ふゆうせんこうば）  
浮遊選鉱場は、北沢地区に昭和12年に完成した選鉱と精錬用の施設です。当時、相川の海岸一帯にあった金銀を含む浜石を処理し、大量の金銀を産出しました。



**佐渡を世界遺産に**

「佐渡を世界遺産に」公式ロゴマーク

制作者 高橋和宏氏

佐渡の世界遺産にふさわしい自然と歴史を表しています。佐渡を代表する「金山・銀山」と「寺社の屋根」を緑と山吹色の部分で、「トキ」と「佐渡島の輪郭」を赤い部分に見立てました。